

〔翻刻〕

拜啓 此程は
久し振にて御面會
益御清福の段
欣賀此事ニ候 例の
如く種々御配慮
有難く殊ニ講話
會¹の事御迷惑
被察申候 国宝
修理ニ付御希望
の趣御尤ニ相聞へ候
其内高村氏²とも
打合何分可申上候
唯事業の為に掛
念不少候
森田玉井³の
仏像其後御面
倒の事と存候
御来示ニ依り
別紙小切符
封入候間恐縮ニ
候へ共可然御取計
被下度 現物ハ堅
固ニ荷造御命被下
中根岸五十山田方ニ
御送附方御取計
被下度 決して急ぎ
不申候
右用事迄 草々頓首
八月五日 覺三
古拙兄

¹ 日本美術学院主催の夏期講演会

² 高村光雲（一八五二—一九三四）

³ 奈良の古美術商、森田一善堂と玉井大閑堂を指す